

野球中継で用いられる外来語

水 野 かほる・渡 邊 ゆかり

1. はじめに

日本語における外来語の氾濫が問題にされるようになってすでに久しい。大勢の人が接するテレビ番組では、特にスポーツ番組とミニ番組に外来語が多用されている(菅野1983)。

また、スポーツ番組には外来語が多いとはいっても、スポーツの種目によって、使われ方に違いがある。サッカーやゴルフのように外来語使用が圧倒的に多いものもあれば、柔道、剣道、弓道、相撲等といった日本古来のスポーツのようにその本来の術語の中に外来語を含まないものもある。専門用語に関しては、例えば、「アンパイアー」はテニスでは主審を野球では審判員を指すが、バレーボールやバスケットボールの主審は「レフェリー」である。スポーツ番組の中でも特に野球を扱った番組はその歴史が古く、「ストライク」のような純然たる外来語や「ゴロ」¹⁾のような和製英語が数多く用いられている。本稿においては、この野球の分野で用いられる外来語の使用実態ならびに特色を渡邊(2008)の「サッカー中継に用いられる外来語」の調査と比較しながら明らかにすることを目的とする。

2. 調査方法

以下に、「(A) 調査対象」と「(B) 外来語の採取方法」を記す。

(A) 調査対象

野球放送における外来語の使用実態を調べるために今回対象としたのは、以下のテレビのプロ野球の実況放送である。

1) 英語では、'grounder/ground ball'。

2006年6月28日 横浜対巨人戦 (TBS系)

2006年7月 1日 巨人対阪神戦 (日本系)

2006年7月 2日 巨人対阪神戦 (日本系)

(B) 外来語の採取方法

上記放送を録画し、CMを除く実況放送の開始から終了までの間の発話を文字化したものから外来語並びに外来語を含む混種語を抽出した。本調査においては、外国語から借用した日本語のうち、漢語を除くものを外来語としたほか、和製英語などもこれに含めた。また、外来語が語の構成要素として含まれている混種語も外来語として調査対象に含めた。

3. 調査結果

3. 1 延べ語数と異なり語数

まず、本調査で採取した外来語（外来語を構成要素として含む混種語を含む）の延べ語数と異なり語数について見ていく。

上記テレビ中継から採取した外来語の延べ語数、異なり語数は表1の通りである。また各試合の延べ語数、異なり語数は表2の通りである。

表1 全試合の延べ語数と異なり語数

①延べ語数	2,825語
②異なり語数	599語
③延べ語数÷異なり語数	4.7

(③は小数点第2位以下四捨五入)

表2 各試合の延べ語数と異なり語数

	6/28	7/1	7/2	1 試合平均
①延べ語数	1,125語	905語	793語	941.0語
②異なり語数	347語	254語	261語	287.3語
③延べ語数÷異なり語数	3.2	3.6	3.0	3.3

(③と平均は小数点第2位以下四捨五入)

渡邊 (2008) では、サッカー中継において使用される外来語について、同様の調査 (cf. 渡邊の表3) を行ったが、その結果は、一試合平均の延べ語数が784語、異なり語数が188語、延べ語数÷異なり語数が4 (小数点第1位以下四捨五入) であった。すなわち、一試合平均の①②はともに、野球中継の方がサッカー中継よりも語数が多く、③については、野球中継の方がサッカー中継よりも値が低い。野球中継の方が①②の値が大きい原因としては、試合の中継時間の長さがある程度関与している可能性がある。また、野球中継の方が③の値が小さいことから、総体的に野球中継の方がサッカー

野球中継で用いられる外来語

中継よりも一語あたりの使用頻度が低いことがうかがえる。

次に、出現試合数ごとに見る延べ語数と異なり語数は表3の通りである。

表3 出現試合数ごとに見る延べ語数と異なり語数

	①延べ語数	②異なり語数	③延べ語数÷異なり語数
出現試合数3回の語	1,614語	72語	22.4
出現試合数2回の語	549語	118語	4.7
出現試合数1回の語	662語	409語	1.7

(③は小数点第2位以下四捨五入)

表3より、延べ語数については、サッカー中継と同様出現試合回数が多い語ほどその値が高く、異なり語数については、これと反対に出現試合回数が多い語ほどその値が低くなる。また、③の延べ語数÷異なり語数については出現試合数が多い語ほどその値が大きいことから、出現試合数が多い語ほど出現頻度が高い、換言すれば出現頻度が高い語ほど出現試合数が多い傾向にあることがわかる。

これらの点については、渡邊のサッカー中継の調査と同様であった (cf. 渡邊の表4)。

以上、3.1では本調査で採取した外来語の延べ語数と異なり語数について分析してきた。次の3.2では、出現頻度の高い語ならびに形態素の意味的特徴について分析する。

3. 2 出現頻度の高い語並びに形態素の意味的特徴

まず、出現頻度の高い語上位10位は表4の通りである。

表4に見るように、1位は渡邊のサッカー中継の調査(渡邊の表5)と同様「ボール」であった。これは、野球もサッカーと同様、球技の一つであることに起因する。2位以下は、場所と人、道具、試合の状況と直接結びつくボールの動きなど、野球の試合を構成する最も基本的存在を表す語が大部分となっている。

表4 出現頻度の高い語上位10位

順位	具体例	出現数	出現の割合
1	ボール	110	3.9%
2	ピッチャー	96	3.4%
3	ホームラン	81	2.9%
4	バッター	70	2.5%
5	<英語読みの数>アウト	65	2.3%
6	ゲーム	62	2.2%
7	ランナー	61	2.2%
8	ストレート	59	2.1%
9	ヒット	48	1.7%
10	バッターボックス	43	1.5%

(「出現の割合」は小数点第2位以下四捨五入)

サッカー中継では得点チャンスと結びつく行為を表す語が多用されており、このような特徴は野球中継でも見られるものの、サッカーほど多くはない。

次に、出現頻度の高い形態素10位は表5の通りである。分析にあたり、'ing'や'er'といった名詞化機能を持つ英語の接辞に由来する「-ング」や「-ー」を伴った「語基+ング」「語基+-」は、語基と「-ング」、「-ー」を分けず、この形で一つの形態素として扱った。また、複数や所有格を表す英語の接辞's'に由来する「-ズ」を伴った「語基+ズ」もこの形で形態素として扱い、「-ズ」の有無は形態素の相違に関与しないものとした。

表5 出現頻度の高い形態素上位10位

順位	具体例	出現数
1	<英語読みの数>	272
2	ボール	194
3	アウト	157
4	バッター	153
5	ピッチャー	117
6	ホーム	106
7	ランナー	100
8	ラン	94
9	ヒット	85
10	ゲーム	84

表4・5からは、表5で挙げた形態素全てが表4の出現頻度の高い語を構成する形態素として用いられていることが分かる。

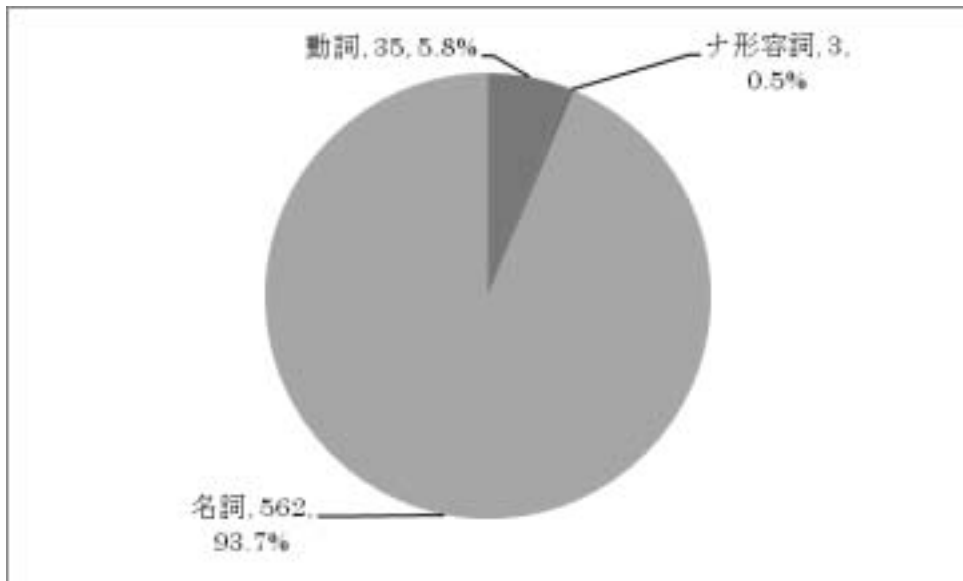
以上、出現頻度の高い語並びに形態素の意味的特徴について見てきた。次の3.3では、品詞別に見た語の意味的特徴について分析する。

3.3 品詞別に見た語の意味的特徴

品詞別に見た異なり語数とその割合は、グラフ1の通りである。グラフ1から分かるように、名詞の占める割合が約93.7%と最も高く、動詞、ナ形容詞（副詞的な用法を含む）の出現比率は、各5.8%、0.5%であり、名詞と比較すると極めて低い²⁾。なお、渡邊のサッカー中継における同様の調査（cf.渡邊のグラフ1）でも、名詞の占める割合は約89%と極めて高かった。また、次に動詞、ナ形容詞の順で出現率が低くなる点も同様であったが、サッカー中継では、これらの出現頻度は、順に約6%、約5%であり、形容詞の出現率は野球中継に比して高い。

2) 永田(2002)によると、外来語の品詞性に関して、『広辞苑』では全ての外来語は名詞と考えられており、全項目数に対して名詞以外の活用をする語はわずか2.22%であるということである。

グラフ1 品詞別に見た異なり語数とその割合



次に、以下、動詞、ナ形容詞、名詞の順に、それぞれの語の意味的特徴について分析していく。

まず、動詞については、共起する必須成分の格と意味の相違から、表6に示す(A)～(L)の12種類に分類することができる。

表6 必須成分の格と意味の相違に基づく動詞の種類とその具体例

動詞の種類	具体例	異なり語数
(A) [チームが]自動詞	リードする	1語
(B) [選手が]自動詞	ピッチングする、プレーする、スイングする、スタンバイする、スウェイする、スタートする、バックホームする、バッティングする、フルスイングする、ロスする、スタメン復帰する	11語
(C) [ボールが]自動詞	シュート回転する、シュートする、スイングする、<英語読みの数>バウンドする、クロスする、セイフティーバントする	6語
(D) [選手が][選手に]自動詞	リードする、タッチする、リレーする	3語
(E) [選手が][場所に]自動詞	タッチする	1語
(F) [監督・コーチが][選手に]自動詞	アドバイスする、コーチする	2語

動詞の種類	具体例	異なり語数
(G) [チームが][順位を]他動詞	キープする	1語
(H) [チームが][得点を]他動詞	リードする	1語
(I) [選手が][選手を] 他動詞	リードする、マークする、ノックアウトする	3語
(J) [選手が][ボールを] 他動詞	カットする、ヒットする、キャッチする、トスする、コントロールする、ファールする、ブロックする、ヘッドアップする	8語
(K) [監督・コーチが] [選手を]他動詞	ピックアップする	1語
(L) その他	チェックする、リプレーする	2語

これらのうち、(B) (D) ~ (F) (I) ~ (K) の7種類は「選手」を必須成分としており、(B) (D) (E) (I) (J) の5種類は「選手」を主語としている。その他の必須成分としては、「チーム」「監督・コーチ」「ボール」「得点」「(チームの)順位」「場所(ホーム)」等が用いられている。

また、これらの動詞のうち(A) ~ (K) は、野球の試合において中心的役割を果たす選手の動きを筆頭に、試合の状況や局面、チームの勝敗等を表わしている。この中には、「バックホームする」「バッティングする」「シュートする」「セーフティーバントする」といった野球の専門用語も含まれており、「リードする」のように「相手チームより多く得点する」「選手を先導する」と多義的に使用されている語も存在した。「(L) その他」の2語「チェックする」「リプレーする」は、ゲストの音声アナウンサーまで届いていないのでチェックするというものと、選手の動きの映像のリプレーを見て欲しいという視聴者への解説者の要望の中で使われたものであり、試合と直接関わるものではなかった。

次に、ナ形容詞の意味的特徴について見ていく。ナ形容詞は、「コンパクト」「ギャンブル的」「スタミナの」の3語(異なり語数)であった。以下の具体例から分かるように、「コンパクト」(延べ3例)はいずれもバッターのスイングに関する解説において、また「スタミナの」(延べ1例)、「ギャンブル的」(延べ1例)は、選手の身体的状況、及び試合の局面における選手の判断についてのコメントとして使われている。

- (1) ある程度イメージがあった中で、自分がどう対応しようか、非常にコンパクトに振れましたよね。(7月1日)
- (2) 若い内海ですから、スタミナのには問題ないと思いますが、…。(7月2日)
- (3) ある程度転がした段階で、もうね、ファースト、という気持ちになるのがキャッチャーですよ。もうこれ、ギャンブル的なね、判断ですよ。(7月1日)

野球中継で用いられる外来語

最後に、名詞は、意味的に以下の表7に示す(A)～(R)の18種類に分類することができた。

表7 名詞の意味的特徴

名詞の種類	具体例	異なり語数
(A) 時期や時間や 気候	イニング、オールスター前後、今シーズン、今シーズン第<数>号、今シーズン初安打、シーズン、シーズン中、<数>イニング、<数>イニングスぶり、<数>シーズン、ビッグイニング、ロス	12語
(B) スポーツ	K1、サッカー、スポーツ、プロ野球、リング	5語
(C) 試合や試合方式	オリンピック、オールスター、カード、K1ワールドマックス、K1ワールドマックス2006世界一決定トーナメント、ゲーム、サヨナラゲーム、サンヨーオールスターゲーム、消化ゲーム、<数>ゲーム、セリーグ、セリーグ開幕戦、セントラルリーグ、WBCワールドベースボールクラシック、デーゲーム、FIFAワールドカップ準々決勝、パシフィックリーグ、パリーグ、ペナントレース、メキシカンリーグ、メジャー、リーグ	22語
(D) 試合会場やその位置	サンマリンスタジアム、サンマリンスタジアム<地名>、スタジアム、<地名>サンマリン、<地名等>スタジアム、<地名企業名>ドーム、<地名>マリンスタジアム、浜スタ、ホーム、よみうりランド	10語
(E) 試合の局面や様子	<英語読みの数>アウト、<英語読みの数>アウト<英語読みの数><英語読みの数>、<英語読みの数>アウト<数>塁、<英語読みの数>アウト<数>塁<数>塁、<英語読みの数>アウトフルベース、<英語読みの数>アウト満塁、<英語読みの数>アウトランナー<数>塁、<英語読みの数>アウトランナー<数>塁<数>塁、<英語読みの数>アウトランナーなし、<英語読みの数><英語読みの数>、<英語読みの数><英語読みの数><英語読みの数>、<英語読みの数>エンド<英語読みの数>、<英語読みの数>ストライク<英語読みの数>ボール、<英語読みの数>ストライクノーボール、<英語読みの数>ナッシング、<英語読みの数>ボール、勝ちゲーム、勝ちパターン、結果オーライ、ケース、ゲームセット、ゲーム展開、修正ポイント、スタートライン、<数>点リード、<数>塁セーフ、タイガースリード、大量リード、ターニングポイント、<地名>ドーム<数>対<数>、ノーアウト<数><数>塁、ノーアウト<数>塁、ノーアウト<数>塁<数>塁、ノーアウトランナー<数>塁、ノー<英語読みの数>、パターン、ピッチャー交代、ポイント、ボール<英語読みの数>、ムード、ラッキーセブン、リズム、リード	43語

名詞の種類	具体例	異なり語数
(F) チームやチームと関わる集団	相手チーム、下位チーム、チーム、<チーム名>サイド、ファーム、両チーム	6語
(G) チームの順位や状態	<アルファベット>クラス<数>位、イーブン、<英語読みの数>チャンス、球団ワースト、ゲーム差、<数>位タイ、<数>ゲーム、<数>ゲーム差、ストップ、セリーグ首位、セントラルリーグ<数>位、セントラルリーグトップ、チーム状態、チャンス、トップ、トンネル、ピンチ、プラス、ベスト<英語読みの数>、ランキング、ランキング<数>位、連勝スタート、連敗ストップ	23語
(H) チームの構成員(選手、監督、スタッフ)やその役割	相手ピッチャー、<英語読みの数>アウトランナー、<英語読みの数>ランナー、エース、エース<人名>、オーダー、キャッチャー、キャプテン、キャプテン<人名>、キャプテン代行、クリンナップ、クリンナップ揃い踏み、コーチ、ゴールデンルーキー、コンビネーション、スターター、サウスポー、サード、サード<人名>、ショート、新エース、<人名>EA、<人名>コーチ、<人名>先頭バッター、<人名>バッティングコーチ、<人名>バッテリーコーチ、<人名>ヘッドコーチ、<人名>ピッチングコーチ、<数>番バッター、<数>番手ピッチャー、<数>塁ランナー、<数>割バッター、スター、スターティングメンバー、スタメン、セカンド、セカンド<人名>、センター、センター<人名>、先頭バッター、先発オーダー、先発ピッチャー、先発メンバー、先発ローテーション、大エース、<チーム名>EA、<チーム名>エグゼクティブアドバイザー、<チーム名>バッテリー、チームリーダー、ドクター、中心メンバー、トップ、トップバッター、ナイン、ノーアウト<数>番、ノーアウトランナー、ハイボールヒッター、バックアップ、初スタメン、バッター、バッターサイド、バッター<人名>、バッテリー、バッテリー間、左バッター、左ピッチャー、ピッチャー、ピッチャー<人名>、ピッチングコーチ、ピッチングスタッフ、ヒーロー、ファースト、ファースト<人名>、ファーストランナー、ファーストランナー<人名>、ファーム、プレーヤー、プロ野球史上<数>人目、プロ野球選手、ベテラン、ベンチ、ポジション、ポスト<人名>、右バッター、右ピッチャー、メンバー、ライト、ライト<人名>、ラインナップ、ラストバッター、ランナー、リード、リリーフ、両サウスポー、ルーキー、ルーキー<人名>、レギュラー、レフト、レフト<人名>、ローテーション	100語
(I) 観客	<チーム名>ファン、ファン、野球ファン、プロ野球ファン	4語

野球中継で用いられる外来語

名詞の種類	具体例	異なり語数
(J) チームの構成員(選手、監督、スタッフ)の所持物	アウトカウント、イメージ、エネルギー、カウント、カウントベース、グラブ、ゲーム感、ゴールドングラブ賞、コントロール、修正ポイント、就労ビザ、スタミナ、スタンス、スピード、センス、センスポイント、タイプ、ダメージ、打率ランキング、チーム力、チャンス、データ、トップ、バッター心理、バッティング、バッティングカウント、バッティンググローブ、バッティングスタイル、バット、バットコントロール、バランス、バロメーター、ピッチング、ヒッティングカウント、ピッチ、プラス思考、プラン、フルカウント、ペース、ヘルメット、ホームラン記録、ボール、ボールカウント、ボールカウント<英語読みの数>エンド<英語読みの数>、マスク、モチベーション、野球センス、リスク、リズム、リリースポイント、レベル	51語
(K) 観客や実況者の所持物	インパクト、バッター時代、ファイト	3語
(L) チームの構成員(選手、監督、スタッフ)の動きや状態、結果	アウト、アクシデント、アメリカンノック、アンバランス、ウォーキング、ウォーミングアップ、<英語読みの数>アウト、<英語読みの数>チャンス、<英語読みの数>ベース、<英語読みの数>ベースヒット、<英語読みの数>ラン、<英語読みの数>ランホームラン、エラー、オーダー作り、送りバント、オーバースロー、外野フライアウト、ガッツポーズ、カット、逆転<英語読みの数>ラン、逆転サヨナラ<英語読みの数>ランホームラン、キャッチボール、キャッチング、クラウチングスタイル、ゲッツー、ゴースイン、コミュニケーション、今シーズン第<数>号、今シーズン初安打、サイクル安打、サイクル達成、サイクルヒット、サイド、サイドスロー、サイドハンド、サイン、ジェスチャー、シフト、ジャストミート、シャットアウト、ショートゴロ併殺打、スイング、スイングアウト、<数>号ソロホームラン、<数>号ホームラン、<数>スイング、<数>点タイムリー、<数>ホームラン、スクランブル、スタート、スタメン復帰、ステップ、ストップ、スライディング、セカンド送球、セットポジション、セーブ、全員ノック、ソロ、ソロホームラン、第<数>号ソロホームラン、第<数>号<英語読みの数>ランホームラン、第<数>号ホームラン、ダイビング、タイミング、タイムリー、タイムリー<英語読みの数>ベース、タイムリーヒット、タッチアウト、ダブルスチール、ダブルプレー、チームプレー、ティーバッティング、通算<数>号ホームラン、デッドボール、電撃トレード、テンポ、同点タイムリー、トス、ドラフト<数>位、	137語

名詞の種類	具体例	異なり語数
	<p>トレーニング、ナイスベースカバー、投げミス、ノーアウト、ノック、ノックアウト、ノーマーク、パスボール、バックホーム、バックホーム態勢、バッティング、バッティング練習、初ヒット、パーフェクト、パフォーマンス、バント、バントシフト、ビッグプレー、ピッチャー交代、ピッチング、ヒット、ピンチ、ファインプレー、ファン投票<数>位、フィニッシュ、フィルダースチョイス、フィールディングアウト、フォーム、フリーバッティング、フルスイング、プレー、プレッシャー、プロ入り初完封、プロ入り初完封勝利、プロ入り初先発、プロ<数>年日、プロ入り通算<数>試合目、プロ通算<数>本安打、プロ初完封、プロ初完封勝利、ベースカバー、ベスト、ヘッドスライディング、ポイント、ホースアウト、ホームイン、ホームゲッツー、ホームラン、ホームラン王、ホームランキング、マンツーマン、ミス、ミーティング、ランキング<数>位、リズム、リード、リハビリ、リハビリ中、リレー</p>	
(M) ボールの動きや状態	<p>アウトコース、アウトコース寄り、アウトサイド、アウトサイドストライク、アウトロー、1塁間ライナー、インコース、インコース寄り、インサイド、<英語読みの数>バウンド、<英語読みの数>バウンドヒット、<英語読みの数>ベース、<英語読みの数>ベースヒット、外野フライ、カーブ、犠牲フライ、キャッチャーファールフライ、逆転タイムリー、コース、ゴロ、サードゴロ、シュート、シュート回転、初球ストレート、初球チェンジアップ、ショートゴロ、ショートバウンド、シングルヒット、<数>キロ、<数>パーセント、スタンドイン、ストライク、ストライクボール、ストレート、スライダー、セカンドゴロ、セカンドフライ、先制ホームラン、センターオーバー、センターフライ、センター前ヒット、ソロ、ソロホームラン、第<数>号<英語読みの数>ラン、タイムリー<英語読みの数>ベース、チェンジアップ、長打コース、デッドボール、内野ゴロ、内野フライ、バースデーアーチ、ピッチャーゴロ、ファーストゴロ、ファーストストライク、ファーストフライ、ファール、ファールボール、フェア、フェンス直撃、フォーク、フォークボール、フライ、変化球フォーク、ホームラン、ボール球、凡フライ、ライトフライ、ライト前ヒット、ライナー、ラストボール、両サイド、レフトフライ、レフト前ヒット</p>	73語
(N) 観客の動き	<人名>コール、ブーイング	2語

野球中継で用いられる外来語

名詞の種類	具体例	異なり語数
(O) 野球場内の場所、位置、線、方向、軌道	相手ベンチ、インハイ、エキサイトシート、キャンパス、グラウンド、コーナー、サード側、ショート後方、ショートゴロ正面、ショート正面、<数>塁側スタンド、<数>塁キャンパス、<数>塁スタンド、<数>塁ベース、スコアリングポジション、スタンド、ストライクゾーン、セカンド、セカンド正面、センター前、ダッグアウト、<チーム名>ベンチ、ネクスト、ネクストバッターズサークル、ネット、バックスクリーン、バッターボックス、ファールグラウンド、フィールド、フェンス、フェンス一杯、ブルペン、プレート、ベース、ベース板、ベース上、ベルトゾーン、ベンチ、ホーム、ホームベース、マウンド、マウンド上、右バッターボックス、ライト、ライトスタンド、ライト線、ライト方向、ライン際、レフト、レフトスタンド、レフト線、レフト前	52語
(P) 放送関連	アナウンサー、インタビュー、お立ち台ヒーローインタビュー、コメント、<人名>アナウンサー、スペシャルゲスト、スペシャルドラマ、チャンネル、TBS、TBS系列、特設スタジオ、ハイライト、ヒーローインタビュー、VTR、プロ野球中継、リポーター、レポート	17語
(Q) その他野球関連用語	キャッチボール教室、キャンプ、国際スカウト、第<数>次キャンプ、ファミリーキャッチボール、プロ、ミスタージャイアンツ、ミニキャンプ、ランニング	9語
(R) その他一般用語	アバウト、イコール、イベント、インチ、ウェイト、オリエントエクスプレス、ギャンブル、キャンペーン、骨髓バンク、コーヒー、ジェントルマン、ジーバンド、セット、センチ、データ、テレビ、トータル、ビッグプロジェクト、ビデオ、ビール、ファミコン、ファミリースタジアム、プラスアルファ、プレゼント、プロジェクト、ポケットマネー、ホームページ、メス	28語

表7から分かるように、「(L) チームの構成員（選手、監督、スタッフ）の動きや状態、結果」「(H) チームの構成員（選手、監督、スタッフ）やその役割」に関する語彙が順に137語、100語と多く用いられている。また、「(M) ボールの動きや状態」「(O) 野球場内の場所、位置、線、方向、軌道」「(J) チームの構成員（選手、監督、スタッフ）の所持物」「(E) 試合の局面や様子」の異なり語数も、順に73語、52語、51語、43語と比較的多い。さらに、動詞と同様、野球の専門用語が多く含まれている。

渡邊のサッカー中継についての調査結果 (cf. 渡邊の表10) と比較すると、サッカー、野球ともに「チームの構成員の動きや状態」を表す異なり語数が最も高い点は共通であるが、サッカーの方が異なり語数の数値が190語とかなり高い。これは、サッカーという競技では、絶えず選手のほとんどがフィールド内を移動しており、そのことが試合展開と密接に関わっていることに起因すると考えられる。

また、「(E) 試合の局面や様子」を表す語、ならびに「(M) ボールの動きや状態」については、野球の方がサッカーより多く用いられている。これは、野球においては、ピッチャーが投げる1球ごと、イニングごとに試合状況が絶えず変化していくことに起因すると考えられる。

なお、野球中継では、放送関連や解説者・ゲストのコメントの中には、試合の内容や状況には直接関連しない用語もかなり含まれていた。

次に、表7で挙げた名詞の中で、多義的に使用されている語の意味的特徴について見ていく。

まず、どのような点で多義的なのかという観点からこれらの語を分類すると、表8のように9種類に分けられる。表8より、「(H) チームの構成員 (選手、監督、スタッフ) やその役割」と「(O) 野球場内の場所、位置、線、方向、軌道」の解釈がある語類の異なり語数が一番多いことが分かる。これは、野球では、サッカーなどと同様、選手や選手の役割を表すのに、「レフト」「セカンド」「センター」など位置を表す語が多く使用される傾向にあることに起因する。また、二番目に多い「(L) チームの構成員 (選手、監督、スタッフ) の動きや状態、結果」と「(M) ボールの動きや状態」の解釈があるものについては、例えば、選手がホームランを打ったときに、選手とボールの動きと、バッターが打った打撃結果がホームランであるという両方の意味が読み取れることを表す。小西 (2008) は、サッカーやハンドボールなどの得点につながる攻撃を示す「シュート」、バレーボールやテニスなどの攻撃の動きである「アタック」「スマッシュ」はそれ自体が一定の動きの型を伴うものだとはみなしにくい。が、野球の「ホームラン」「ヒット」はそれ自体が得点あるいは進塁を意味する打撃結果を表すとしている (小西2008,10頁)。実際の事例では、動きのみを表す場合と得点・勝利につながる結果を重視する場合との両方があるようである。

表8 多義的に使用されている名詞

解釈の種類	具体例	異なり語数
(D) と (O)	ホーム	1語
(E) と (L)	アウト	1語
(E) と (H) と (L)	リード	1語
(E) と (J) と (L)	リズム	1語
(G) と (J)	チャンス	1語

野球中継で用いられる外来語

解釈の種類	具体例	異なり語数
(G) と (L)	ピンチ	1 語
(H) と (J)	トップ	1 語
(H) と (O)	ベンチ、レフト、ライト、セカンド、 センター、ショート	6 語
(L) と (M)	タイムリー、ホームラン、タイムリー <英語読みの数>ベース	3 語

次に、表 8 に挙げた語の意味的な結びつきについて述べると、<メタファー的な結びつき>と<メトニミー的な結びつき>が存在する。以下にその例を挙げる。

<メタファー的な結びつき>

- (4) a. ベイスターズのリードは 5 点と変わりまして 6 回の裏、ベイスターズトップバッターの石井琢朗がバッターボックスです。(6 月 28 日)〔下線部は「相手より多く得点している」の意〕
 b. 矢野のリードの気持ちを井川が察して、さらにその技術もあったということで、…。(7 月 2 日)〔下線部は「チームを引っ張っていく」の意〕
 c. ワンナウトでランナーは 1 塁です。ギリ、ギリ、とリードを取り、高橋尚成にプレッシャーを与えます。(7 月 1 日)〔下線部は「アヘッド」の意。ベースからの距離をとること。〕
- (5) a. これは先ほど村田の 3 塁線を破りますタイムリートゥーベースです。(6 月 28 日)〔下線部は「ボールの動き」の意〕
 b. 4 番村田のタイムリートゥーベースが 3 回の裏に飛び出しまして、…。(6 月 28 日)〔下線部は「選手の動き」の意〕
- (6) a. 昨日のリズムがありますから、流れというものが。(7 月 2 日)〔下線部は「試合の局面、状況」の意〕
 b. 自分のリズムでマウンドに上がったほうがいいんだと…。(7 月 2 日)〔下線部は「選手の状態」の意〕
 c. 足でリズムとってませんね。(6 月 28 日)〔下線部は「選手の動き」の意〕

<メトニミー的な結びつき>

- (7) a. サードに、仁志に代わって一軍に上がってきたばかりの若い岩館が入っています。(7 月 2 日)〔下線部は位置を表す〕
 b. 記録はサードにエラーが記録されました。(7 月 2 日)〔下線部は「三塁手」の意〕
- (8) a. 横浜はホームで負けませんからね。(7 月 2 日)〔下線部は「ホームグラウンド」の意〕
 b. 二岡選手が頑張って、ホームまで走ってきて、それで点数が入って、ほん

と非常に嬉しいです。(7月2日)〔下線部は「ホームベース」の意〕

- (9) a. キャッチャーの阿部、ファーストのイ・スンヨブ、ベンチの前まで追いかけて、どうだ、どうだ、と、ベンチの上でした。(7月1日)〔下線部は場所を表す〕
- b. そういうことも含めて、やっぱりベンチはある程度、期待すると思うんですね。(7月1日)〔下線部は「チームの首脳部」の意〕

次に、言及対象が同じ対語、即ち知的意味が同じ対語の形態的特徴について分析する。表9は、知的意味が同じ対語を形態的特徴ごとに分類したものである。

表9 知的意味が同じ対語の形態的特徴

省略が関与する対語
「フォーク」と「フォークボール」、「タイムリー」と「タイムリーヒット」、「ホーム」と「ホームベース」、「ソロ」と「ソロホームラン」、「ショート」と「ショートバウンド」、「ネクスト」と「ネクストバッターズサークル」、「フェール」と「フェールボール」、「スタメン」と「スターティングメンバー」、「ストライク」と「ストライクボール」、「セリーグ」と「セントラルリーグ」
語種の相違が関与する対語
「シャットアウト」と「完封」、「ダブルプレー」と「併殺」(ゲッツー)、「トップバッター」と「先頭バッター」、「ホームランキング」と「ホームラン王」、「サウスポー」と「左ピッチャー」、「サイクルヒット」と「サイクル安打」、「スターティングメンバー」と「先発メンバー」
外来語の種類が異なる対語
「ベンチ」と「ダッグアウト」 ³⁾ 、「アウトサイド」と「アウトコース」、「インサイド」と「インコース」、「ラインナップ」と「オーダー」、「サイドハンド」と「サイドスロー」
その他の要因
「ベース」と「キャンバス」 ⁴⁾

表9が示しているように、省略が関与する対語が最も多い。「特にスポーツのように速いスピードでプレイをする場合には、できるだけことばを略す傾向がある(岡野他1982,8頁)」と言うが、そのことがここからも分かる⁵⁾。省略の方法には、ことばの前部分の省略(例:〔ショ-〕ケース)、中央部分の省略(例:オーバー〔ハンド〕スロー)、後ろ部分の省略(例:アイス〔クリーム〕)があるが、ここではほとんどが後ろ部分の省略であった。また、語種の相違が関与する対語、外来語の種類が異なる

3) 両チームの選手、コーチなどの控え場所であるが、グラウンドよりも低い位置に設けられたものを「ダッグアウト」(dugout)、グラウンドと同じ高さに設けられたものを「ベンチ」(bench)と呼ぶ。
(<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%90%83%E5%A0%B4>, 2009年6月20日)

4) ベースを覆っている袋が帆布(キャンバス)製であったことから、ベースそのものを「キャンバス」というようになった(小倉2008,34頁)。

5) 山田(2005)は、最近、スポーツに限らず言葉の省略的な用法が多くなっており、外来語はこのテンポに加担していると述べている(山田2005,287-288頁)。

野球中継で用いられる外来語

対語も少なくない。サッカー中継についての調査（渡邊の表12）では英語の接辞が関与するものも少なからず存在したが、今回の野球の外来語においては見られなかった。

以上、3. 3では、品詞別に見た語の意味的特徴について分析してきた。なお、冒頭にも触れたが、野球用語にはとりわけ和製英語が多いとされている（石野1982等）。本調査においても、以下のような和製英語が確認された。外国語は日本語の中に取り入れられると、日本語化し変容する。その内容も、音形、文法・形態、意味・用法など多岐にわたり、和製英語の定義も一通りではない。これらの事例からは、様々な批判がありつつも、外来語を日本語として活用している日本人の逞しさと日本語の許容力を感じる。

例：オーバースロー、キャッチボール、キャンバス、クリンナップ、ゲッツー、シュート、デッドボール、バックホーム、ファインプレー、フォアボール、ホームイン、ホームベース、等

次の3. 4では、外来語を構成要素として含む混種語名詞の語構成について分析する。

3. 4 外来語を構成要素として含む混種語名詞の語構成

本調査で採取した外来語599種のうち、外来語を構成要素として含む混種語名詞は、175種存在した。このうち、外来語を前項要素として含むものは85種、後項要素として含むものは92種であった。

以下に、外来語を前項要素として含む混種語名詞の例と出現数を示す。

スタメン復帰 8、マウンド上 7、<英語読みの数>アウト<数>塁<数>塁 7、<英語読みの数>アウト満塁 6、ノーアウト<数>塁<数>塁 6、シュート回転 5、プロ入り初完封 5、<英語読みの数>アウト<数>塁 4、センター前ヒット 4、ゲーム差 4、プロ野球 3、ベース上 3、ライト線 3、ライト前ヒット 3、センター前 3、ノーアウト<数>塁 2、ドラフト<数>位 2、バックホーム態勢 2、バッティング練習 2、プロ野球中継 2、リハビリ中 2、レフト前ヒット 2、<英語読みの数>アウトランナーなし 2、セカンド正面 2、ノーアウトランナー<数>塁 1、<英語読みの数>アウトランナー<数>塁 1、ボールだま 1、<アルファベット>クラス<数>位 1、<英語読みの数>アウトランナー<数>塁<数>塁 1、ショートゴロ併殺打 1、FIFAワールドカップ準々決勝 1、アウトコース寄り 1、今シーズン第<数>号 1、今シーズン初安打 1、インコース寄り 1、オーダー作り 1、オールスター前後 1、キャッチボール教室 1、キャプテン代行 1、クリンナップ揃い踏み 1、ゲーム感 1、ゲーム展開 1、ゴールデングラブ賞 1、サード側 1、サイクル安打 1、サイクル達成 1、シーズン中 1、ショート後方

1、ショートゴロ正面1、ショート正面1、セカンド送球1、セリーグ開幕戦1、セリーグ首位1、セントラルリーグ<数>位1、チーム状態1、チーム力1、バッター時代1、バッター心理1、バッテリー間1、ピッチャー交代1、ファン投票<数>位1、フェンスいっぱい1、フェンス直撃1、プラス思考1、プロ入り初完封勝利1、プロ入り初先発1、プロ初完封1、プロ初完封勝利1、プロ野球史上<数>人目1、プロ野球選手1、プロ野球ファン1、ベース板1、ホームラン王1、ホームラン記録1、ライト方向1、ライン際1、ランキング<数>位1、レフト線1、レフト前1、ノーアウト<数>番1、ノーアウト<数><数>塁1、プロ<数>年目1、プロ入り通算<数>試合目1、プロ通算<数>本安打1、K1ワールドマックス2006世界一決定トーナメント1

また、次の表10は、外来語を前項要素として含む混種語名詞の前項要素（出現数の多いもの10位まで）の具体例とその出現数を示したものであり、表11は外来語を前項要素として含む混種語名詞の後項要素（出現数の多いもの10位まで）の具体例とその出現数を示したものである。

表10 外来語を前項要素として含む混種語名詞の前項要素（上位10）

順位	具体例	出現数 (割合)
1	アウト	33 (22.0%)
2	<英語読みの数>	21 (14.0%)
3	プロ	20 (13.3%)
4	センター	10 (6.7%)
5	スタメン	8 (5.3%)
6	ライト	7 (4.7%)
6	マウンド	7 (4.7%)
8	ゲーム	6 (4.0%)
9	シュート	5 (3.3%)
10	レフト	4 (2.7%)
10	ショート	4 (2.7%)

〔出現数の割合〕は小数点第2位以下四捨五入

表11 外来語を前項要素として含む混種語名詞の後項要素（上位10）

順位	具体例	出現数 (割合)
1	<数>塁<数>塁	14 (9.3%)
2	上	10 (6.7%)
3	<数>塁	9 (6.0%)
4	復帰	8 (5.3%)
5	<数>位	6 (4.0%)
5	満塁	6 (4.0%)
5	完封	6 (4.0%)

野球中継で用いられる外来語

順位	具体例	出現数 (割合)
8	回転	5 (3.3%)
9	前	4 (2.7%)
9	差	4 (2.7%)
9	正面	4 (2.7%)
9	線	4 (2.7%)

(「出現数の割合」は小数点第2位以下四捨五入)

表10に見られる前項要素は、2位の「英語読みの数」を除き、いずれも独立性が高く語基的な役割を担っている。その一方で、表11に挙げられる外来語を前項要素として含む混種語名詞の後項要素は、「復帰」「満塁」などの独立性の高い語基的なものと、「上」「前」「差」などの独立性が低く従属性の高い接辞的なものが混在している。

次に、外来語を後項要素として含む混種語名詞の例と出現数を示す。

今シーズン32、<数>キロ17、右バッター9、<数>塁ランナー8、先頭バッター7、<数>点リード5、左バッター5、センター前ヒット4、<数>シーズン3、<数>パーセント3、<数>塁キャンバス3、外野フライ3、先発ピッチャー3、大エース3、長打コース3、内野ゴロ3、左ピッチャー3、ライト前ヒット3、両チーム3、初球ストレート2、<数>ゲーム2、<数>スイング2、<数>点タイムリー2、<数>番手ピッチャー2、<数>番バッター2、<数>塁セーフ2、相手ピッチャー2、送りバント2、球団ワースト2、結果オーライ2、消化ゲーム2、第<数>号ホームラン2、同点タイムリー2、右ピッチャー2、両サイド2、レフト前ヒット2、逆転タイムリー2、大量リード2、第<数>号<英語読みの数>ランホームラン2、連敗ストップ2、<数>号ホームラン1、<人名>先頭バッター1、<数>イニング1、<数>位タイ1、<数>号ソロホームラン1、<数>ホームラン1、<数>塁側スタンド1、<数>塁スタンド1、<数>塁ベース1、<数>割バッター1、<数>塁間ライナー1、相手チーム1、相手ベンチ1、下位チーム1、外野フライアウト1、勝ちゲーム1、勝ちパターン1、犠牲フライ1、逆転<英語読みの数>ラン1、国際スカウト1、骨髄バンク1、修正ポイント1、就労ビザ1、初球チェンジアップ1、新エース1、全員ノック1、先制ホームラン1、先発オーダー1、先発メンバー1、先発ローテーション1、第<数>次キャンプ1、打率ランキング1、中心メンバー1、通算<数>号ホームラン1、電撃トレード1、特設スタジオ1、内野フライ1、投げミス1、初スタメン1、初ヒット1、プロ野球ファン1、凡フライ1、右バッターボックス1、野球センス1、野球ファン1、両サウスポー1、連勝スタート1、変化球フォーク1、第<数>号<英語読みの数>ラン1、逆転サヨナラ<英語読みの数>ランホームラン1、お立ち台ヒーローインタビュー1、K1マックス2006世界一決定トーナメント1

また、次の表12は、外来語を後項要素として含む混種語名詞の前項要素（出現数の多いもの10位まで）の具体例とその出現数を示したものであり、表13は外来語を後項要素として含む混種語名詞の後項要素（出現数の多いもの10位まで）の具体例とその出現数を示したものである。

表12 外来語を後項要素として含む混種語名詞の前項要素（上位10）

順位	具体例	出現数 (割合)
1	今	32 (15.0%)
2	<数>	29 (13.6%)
3	<数>罌	15 (7.0%)
4	右	12 (5.6%)
5	左	8 (3.7%)
5	先頭	8 (3.7%)
7	<数>点	7 (3.3%)
8	先発	6 (2.8%)
8	両	6 (2.8%)
10	第<数>号	5 (2.3%)

（「出現数の割合」は小数点第2位以下四捨五入）

表13 外来語を後項要素として含む混種語名詞の後項要素（上位10）

順位	具体例	出現数 (割合)
1	シーズン	35 (16.4%)
2	バッター	25 (11.7%)
3	キロ	17 (7.9%)
4	ピッチャー	12 (5.6%)
5	ホームラン	10 (4.7%)
5	ヒット	10 (4.7%)
7	ランナー	8 (3.7%)
8	リード	7 (3.3%)
9	フライ	6 (2.8%)
9	タイムリー	6 (2.8%)

（「出現数の割合」は小数点第2位以下四捨五入）

上記表12から分かるように、外来語を後項要素として含む混種語名詞の前項要素として用いられている和語、漢語には、「先頭」「先発」のように語基的に使用されているものもあるが、多くは接辞的なものである。また、これらはいずれも位置や順番、時間、数値を示すという特徴を持っている。外来語を後項要素として含む混種語名詞の後項要素は、「キロ」を除いて語基的に用いられる要素となっている（表13参照）。

以上、外来語を構成要素として含む混種語名詞の語構成について述べてきた。次の4節においては、本調査結果のまとめと今後の課題について述べたい。

4. まとめと今後の課題

本稿は、スポーツ分野における外来語の使用状況を示す基礎資料を得るために、サッカー中継に用いられる外来語調査と比較しながら、野球中継で用いられる外来語の調査結果に関して述べたものである。以下に、本調査において明らかになったことをまとめる。

- ①出現試合数が多い語ほど出現頻度が高く、また出現頻度が高い語ほど出現試合数が多い傾向にある。
- ②出現頻度の高い形態素は、出現頻度の高い語を構成する形態素としても用いられている。
- ③品詞別に見ると名詞の占める割合が最も高く、野球の専門用語が比較的多く含まれている。
- ④動詞は、共起する必須成分の格と意味の相違から12種類に分類できるが、「選手」を必須成分とするものが多い。
- ⑤名詞は、「チームの構成員やその役割」「チームの構成員の動きや状態、結果」に関するものが最も多いが、「試合の局面や様子」「チームの構成員の所持物」「ボールの動きや状態」「野球場内の場所、位置、線、方向、軌道」を表すものも多く含まれる。野球の専門用語が存在する反面、野球とは関連のない、放送用語や一般用語も存在している。
- ⑥名詞の多義的な用法としては、「チームの構成員の役割」と「野球場内の位置」、「チームの構成員の動きや状態、結果」と「ボールの動きや状態」の解釈を有するものが多い。知的意味が同じ対語の形態的特徴では、省略が関与するものが多い。
- ⑦混種語名詞の語構成では、外来語を前項要素として含む混種語名詞の前項要素は語基的役割を担っているものが多く、外来語を後項要素として含む混種語名詞の前項要素の多くは接辞的なものであり、位置、順番、時間、数値を示す特徴を持っている。

テレビは映像による情報を伴っているとはいえ、言語を通じてそこで伝えられる情報は、音声による話し言葉を中心とした伝達情報である。同じメディアであっても、新聞と放送、さらにはインターネット等ではメディアとしての性質が異なっており、外来語に関してもそれぞれの実態や特徴を把握する必要がある。

現在の外来語の混乱に対する改善への試みとして、国立国語研究所が「外来語言い換え案」を提出しているが、その一方で、スポーツに関しては、新聞において運動記事を読むのは関心を持ち一定の知識を持っている人が中心であるため、カタカナ語が多すぎるといった批判を受けることはまずないとも言われる（関根2003,33頁）。むしろ

専門用語を使うことで、効率的に競技の流れを掴み勝敗の理由を知ることができるというのがその理由である。しかし、スポーツの言葉がスポーツ以外の分野に与える波及効果が大変大きいと思われることから、今後は、異なる種目のスポーツにおける外来語、及び異なるメディアにおけるスポーツ外来語の使用実態や特徴、そしてそれらが及ぼす影響等についても考察する必要があるだろう。

参考文献

- 石野博史 (1982) 「スポーツと外来語」『言語生活』NO.370,32-41
- 石綿敏雄 (2001) 『外来語の総合的研究』東京堂出版
- 岡野俊一郎・川本信正・関瞭二郎・鶴岡昭夫 (1982) 「確かに短く、そして豊かに
スポーツのことば <座談会>」『言語生活』NO.370,2-15
- 小倉伸一編著 (2008) 『スポーツ用語辞典』三修社
- 国立国語研究所 (1981) 『専門語の諸問題』秀英出版
- 国立国語研究所 (2006) 『新「ことば」シリーズ19 外来語と現代社会』
- 小西いずみ (2008) 「スポーツにおける「技(わざ)」 —体操競技のことばを出発点
として—」『日本語学』2008年8月号, 4-11
- 塩田雄大 (2008) 「放送でのスポーツのことば —外来語の扱いを中心に—」『日本語
学』2008年8月号,64-71
- 菅野謙 (1983) 「テレビ高視聴率番組の外来語」NHK総合放送文化研究所『放送研究
と調査』38-43
- 関根健一 (2003) 「新聞記事の中のカタカナ語」『日本語学』2003年7月号,30-39
- 田中建彦 (2002) 『外来語とは何か』鳥影社
- 永田高志 (2002) 「『広辞苑』第四版に見る外来語」近代語研究会編『日本近代語研
究3』,ひつじ書房,45-66
- 野球用語研究会著、西井哲夫監修 (2008) 『野球用語辞典』舵社
- 山田雄一郎 (2005) 『外来語の社会学 —隠語化するコミュニケーション—』春風社
- 渡邊ゆかり (2008) 「サッカー中継で用いられる外来語」『広島女学院大学日本文学』
第18号,1-38